



関まつり紀行

関に伝わる「まつり」を紹介します

其の十八

地蔵祭り

旧吉田村に伝わる盆行事の最後を飾る「地蔵祭り」。古くから子どもたちが中心となって仕切られてきました。



「地蔵祭り」は、毎年8月23日に出来町、吉田町、西町、吉本町一帯で盛大に行われます。かつては、出来町から東町に至る各辻にお地藏様が安置されていました。現在は交通事情の関係で他へ移されているものもあります。お祭り当日にはもとの場所に戻され、多くの人がお参りします。

このお祭りは、江戸時代後期、吉田村に疫病がはやって多くの子どもが亡くなり、その霊を慰めるために地蔵菩薩像を建てて供養と子どもの健康を祈願したのが発祥といわれています。明治・大正時代には、すでにお祭りは盛大に行われ、供養は子どもたちの手で切り盛りされてきました。

お祭りの前日、子どもたちはお地藏様を洗い、地蔵堂の周りを掃除します。その後、幔幕を祠や仮設の小屋に張り、縁台や箱を並べてお供え台を作ります。それからみんなで町内を1軒ずつ回ってスイカや線香、ろうそく、お菓子などのお供え物を寄付してもらいます。

お祭り当日、お供え物を飾りつけ、寄付者の名前を書いた紙を張ります。

夕方になると一斉に提灯の火が灯され、お参りの人が多くなると、子どもたちは参詣者に向かって「ダンベイ、ダンベイ、ろうそくや線香はお志で献じられます」と繰り返し唱えます。合間に「カーン」という鐘の音も入り、素朴な雰囲気醸し出します。

また、世相を風刺した話題を野菜であしらった「だし」が軒先に飾られ、その出来栄を競います。通りには露店も並び、参詣と「だし」を見に集まる人たちにぎわいます。

